

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 自主・自律・貢献の精神を涵養し、グローバル社会の変化に主体的に対応して、納得して自らの人生を形成できる活力溢れる人材を育成する。
1. 変化する社会を自分の視点で捉え直し、考えが異なる相手にも論理的に意見を主張し、共通の合意を見出すコミュニケーション能力を育成する。
 2. 自己実現を図る進路目標の設定と希望進路の実現必達を支援する。
 3. 学校行事や部活動等の幅広い体験を通して、知・徳・体の調和のとれた人格を陶冶する。

2 中期的目標

1 「授業で勝負」の理念で、「21世紀型学力」の育成に挑戦

授業力向上の取組みを学校組織として継続し、教科指導研究委員会を中心に、教科指導の質的進化を図る

- (1) 池高型アクティブ・ラーニングの推進
- (2) ICT活用を含め、全教科で一層「わかる授業」を展開
- (3) 知識・技能定着に加え、発展的学力（思考力・判断力・表現力）や「学び続ける力」の育成
 - ア 土曜講習や少人数展開授業の充実、着実な知識・技能の習得
 - イ 朝読書、総合的な学習の時間・HR等の活用による言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成
 - ウ 自学自習力育成（自習習慣の確立）と自習環境の整備

*学校教育自己診断において、授業の理解度・満足度ともに、平成31年度までに85%をめざす（28年度：理解度75%・満足度70%）

*授業評価アンケートの自学自習項目の肯定率：平成31年度までに3.0ポイント（満点4.0）をめざす（28年度2.60ポイント）

2 「志」の育成と生徒全員の進路保証実現

学ぶための「志」を育成し、目標に対して安易な妥協をさせない進路指導を実施する

- (1) キャリア・ガイダンス充実、高大連携企画（大教大府立高校教職コンソーシアム・大阪大学基礎セミナー）や社会人講話の推進
- (2) 進路情報の基礎となる全国模試の全学年・全員受験推進
- (3) 3年間の進路指導計画充実と、豊富な進路指導情報提供

*学校教育自己診断における、進路関係項目の肯定率を平成31年度までに90%をめざす（28年度平均86%）

*平成31年度までに3年生現役国公立大学合格者26%以上をめざす（28年度合格者22%）

3 総合的な「人間力」育成

- (1) 3年間の教育プログラムに基づく生徒育成
- (2) 学習と部活・行事を両立させる生徒育成
- (3) 朝読書の推進やビブリオバトル導入による読書習慣確立、図書館利用の促進
- (4) 教育相談体制充実
- (5) 国際理解教育推進、国際社会を生きる実践的英語力向上

*学校教育自己診断「勉強と部活の両立」の肯定率を平成31年度までに80%まで上昇させる（28年度53%）

*平成31年度までに月2冊以上読書する生徒（2年生）の比率を60%にする（28年度27%）

4 本校の安全安心基盤、広報体制充実

- (1) 本校独自の災害対策マニュアルの周知徹底
- (2) 情報処理委員会設立、学校HP内容充実、ネット（携帯・スマホ）リテラシー啓蒙
- (3) 中学生生徒に向けた広報活動推進

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【生徒】（前年比5%以上向上したのは4項目、低下したのは1項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学校に行くのが楽しい」生徒は85%で水準に問題ない。 ○「授業で自分の考えをまとめたり、発表することがよくある」 32%⇒43%⇒47%⇒56%⇒65%⇒67%（年々増加）AL授業浸透。 ○教育相談分野で大幅に改善 「自分の悩みや相談に親身になって応じてくれる先生がいる」（前年比8%上昇） 「先生は、他人に知られたくない秘密を守ってくれる」75%⇒77%⇒81% ○人権学習、国際理解、福祉ボランティアに関する質問で6%～13%改善 「命や人権の大切さを学ぶ機会がある」61%⇒71%⇒84%（大幅に改善） 「環境、国際理解、福祉ボランティア等の新しい課題について学習する機会がある」63%⇒71%⇒78%（年々上昇） ○学習環境：「教室・特別教室・運動場等は、授業や生活がしやすいように整備されている」68%⇒63%と唯一5%低下。夏季・冬季の空調管理や施設の老朽化対応が課題 ○危機管理体制：「災害が起こった場合、どのような行動をとればよいのか具体的に知らされている」48%⇒68%⇒76% 生徒向け防災マニュアル周知等により大幅改善 <p>【保護者】（前年比5%以上向上したのは4項目、低下した項目無し）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭との連携、保護者の悩み相談等の項目で肯定率5%以上改善。 施設・設備の満足度が低く、本校の継続的課題である。 <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校長の教育理念の明確化（肯定率95%）、校長のリーダーシップ（肯定率86%）と合わせ、学校運営面は安定した水準。 ○アクティブラーニングを意識した授業実践（60%⇒74%⇒83%と大幅に増加） 	<p>【第1回学校協議会】平成29年6月30日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○情報発信について 「文武両道」の「文」についての学校取り組みだけでなく、「武」で成功した取り組みについて、協議会で部顧問から報告があっても良い。「武」の取り組みを更にPRして良いのではないかな。 ○進路指導について 今後、大学入試改革に対する対応（指導方針）を明確にしていく必要がある。 <p>【第2回学校協議会】平成29年11月28日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○勉強合宿について 本年度初開催の自学自習合宿の他に、学校施設等身近な施設を利用したミニ合宿を併行して企画できないか。 勉強合宿に参加した生徒の成績の伸びや意識の変化などをトレースできないか。 ○校内美化について 学校施設の老朽化が進み、教室の壁も汚かった。生徒の力も借りて、壁のペンキ塗りをしたらどうか。 <p>【第3回学校協議会】平成30年2月20日開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ○進路指導に関する保護者説明について 最近では私立大学でもセンター試験を活用するケースが増えているが、保護者の中には未だにセンター試験の意味をわかっていない方がいるので、保護者の理解を促す説明会等の機会をつくってはどうか。 ○学校教育自己診断アンケート 自主学習の時間を聞く質問があるが、自主学習の定義が曖昧なので、学校の自習室・自宅の勉強なのか、塾・予備校で勉強する時間なのか、学習する場所を明確にした質問に変更したほうが良い。 ○学習方法について 学習の仕方が分からない若者が多いので、自分の学習方法を確立させる指導育成をお願いしたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
二十一世紀型学力育成に挑戦	(1) 池高型アクティブラーニング推進	(1) アクティブラーニング推進 ① 教科指導研究委員会を中心とした授業改善の取組み推進。(アクティブラーニング研究会発足) ② デイバート取組み推進 ③ 生徒の授業参画意識を促進する指導の工夫・改善。 ④ アクティブラーニング先進校への教員派遣	(1) アクティブラーニング推進 ① 授業アンケートの「興味・関心」「理解度」各3P以上(前年度各3.0P) ② 2教科以上でデイバート取組み ③ 校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表することが多い」の肯定率65%以上(前年度65%) ④ 2名以上教員派遣	①授業アンケート 授業の「興味・関心」(3.04P) 授業の「理解度」(3.07P)(○) ③ デイバートは「情報」「保健」「美術」「英語」の4教科で実施(○) ④学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表することが多い」肯定率67%(○) ⑤ 札幌開成高校(1名)、千歳科学技術大学(1名)、灘高校(2名)(○)
	(2) ICT活用と「わかる授業」の展開	(2) ICT活用と「わかる授業」の展開 ① ICT利用教員数増加、そのためのICT環境の整備改善。 ② 教科毎及び学校全体の公開授業実施 ③ 教員間の互見授業推進 ④ 授業評価に課題がある教員は授業改善シート等を活用し改善注力。授業全般に生徒理解度を上げる。	(2) ICT活用と「わかる授業」展開 ① ICT活用教員目標65%以上(前年度:66%) ② 公開授業週間を年間2回以上設定 ③ 授業互見回数一人平均2回以上。 ④ 授業評価で授業理解度項目3P以上の教員数70%以上(前年度76%) ・学校教育自己診断(生徒)肯定率「授業はよく理解できる」:75%以上(前年度:75%) 「教え方に工夫をしている先生が多い」:75%以上(前年度:72%)	① ICT活用教員62%(△) ② 公開授業週間:3回(6月、11月、2月)開催(○) ③ 授業互見回数1人平均2回以上達成(○) ④ 授業評価 ・授業理解度項目3P以上の教員数80%(◎) ・学校教育自己診断(生徒)「授業はよく理解できる」76%(○) 「教え方に工夫している教員が多い」72%(△)
	(3)知識・技能の定着、発展的学力や学び続ける力の育成。 ア 土曜講習や少人数展開授業充実 イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成。 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備。	(3)知識・技能定着、発展的学力・学び続ける力の育成 ア 土曜講習や少人数展開授業充実 ① 土曜講習・課外講習・補習の内容精選、年間を通じた計画的補習実施 ② 英語少人数授業の充実による学力向上 イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ① スピーチコンテスト、デイバート、エッセイ作成等、生徒自身によるアウトプットの機会を捻出 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備 ① チューター制度推進等、生徒の自習機会増加。自習室は平日夜間(放課後～19:30)土曜日(9:00～16:00)開室 ⑥ 新入生対象(勉強方法)オリエンテーション実施。自学自習の方法を指導 ⑦ 家庭学習量調査、自己学習時間増加 ④ 夏期学習合宿(自主合宿)新規実施	(3)知識・技能定着、発展的学力・学び続ける力の育成 ア 土曜講習や少人数展開授業充実 ① 土曜講習出席者目標:2年・3年各250名以上 ② センター試験英語平均点:65%以上(前年度70%) イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成。 ① 生徒による自己表現の取組機会を年間2回以上設定する。 ウ 自学自習力育成と自習環境の整備。 ① 放課後の自習生徒数の前年対比増加(前年比+15%) ② 授業アンケート:自学自習2.7P以上(前年度2.60P) ③ 自主学習1日2時間以上の生徒数比率:50%以上(前年度44%) ④ 自主合宿参加生徒数:30名以上	ア 土曜講習少人数展開授業充実 ① 土曜講習出席者:2年(340名)3年(320名)(○) ② センター試験英語平均点70%(◎) イ 言語活動充実、論理的思考力・課題解決力育成 ① 生徒による自己表現の取組 ・英語スピーチコンテスト(1年) ・JICAエッセイコンテスト(2年)・ビブリオバトル(1年2年) ・デイバート(保健、情報、美術英語)(◎) ウ 自学自習能力育成と自習環境 ① 放課後自習生徒延べ6613名(前年比+36%)(◎) ② 授業アンケート: 自学自習:2.69P(○) ③ 自学自習1日2時間以上の生徒数比率:44%(△) ④ 自主学習合宿参加者: 合計15名アンケート(合宿参加肯定率(5点中4.27)(△)
「志」の育成と全員の希望進路実現	(1) キャリアガイダンス充実	(1) キャリアガイダンス充実 ① 大学見学会、学部学科説明会、教育実習生懇談会等実施。特に生徒のロールモデルとなる社会人講話を拡大して実施 ② 大教大府立高校教職コンソーシアム活用 ③ 大阪大学基礎セミナー受講促進 ④ 学校長の新入生向け講話(ガイダンス)実施	(1) キャリアガイダンス充実 ①拡大版社会人講話の充実 ②大教大教師の学び舎派遣教員:4名以上(前年4名) ③大阪大学基礎セミナー受講生徒:5名以上(前年3名) ④ 4～5月に新入生対象に講話1回実施	① 拡大版社会人講話の充実 ・1、2年生を対象に実施(10月) ・1年生:多様な社会人を招聘し、社会人講話を実施(9月)(○) ② 教師の学び舎派遣教員2名(△) ③ 阪大学基礎セミナー受講生徒0名(×) ④ 学校長に代えて関西大学教授による「学び方」講話1回実施(○)
	(2) 全国模試の全学年・全員受験推進	(2) 全国模試の全学年・全員受験推進 ① 学力指標としての全国模試等の、全学年全員受験を推進する。	(2) 全国模試の全学年・全員受験推進 ① 1、2年各2回、3年4回全国模試受験生徒受験率100%	① 1、2年各2回、3年計4回模試受験100%達成(○)

府立池田高等学校

	(3) 進路指導充実	(3) 進路指導充実 ① 3年間の進路指導計画(MAP)策定と計画的な進路情報提供 ② 3年生向け特別講習の充実等を背景とする進路実績向上	(3) 進路指導充実 ①学校教育自己診断(生徒)「学校の進路指導や進路に関する情報に納得できる」の肯定率:80%以上(前年度84%) ① 現役国公立合格者:学年の23%以上(前年度22%)	①学校教育自己診断(生徒)「学校の進路指導や進路に関する情報に納得できる」86% (○) ② 現役国公立合格者:学年の(18)% (△)
総合的な「人間力」育成	(1) 3年間の教育(生徒育成)プログラム継続実施	(1) 3年間の教育(生徒育成)プログラム ① 3年間の時期に応じた育成ポイントを設定、その趣旨に叶う行事や取組みとなるよう見直したうえで3年間の育成プログラムを策定する。 ② 3年間のプログラムの中で生活指導の重点ポイント(登校指導期間、挨拶励行指導時期、通学マナー指導期間等)を設定、生活習慣や規律規範を確立させる。	(1) 3年間の教育プログラム ①教育プログラムを周知させ、その理念に基づく行事運営、及び新規の取組みにより「自主・自律・貢献」の生徒育成を図る。 ②学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」:肯定率75%以上(前年度68%) 学校教育自己診断(教員)「生徒指導において家族や関係機関との連携ができています」:肯定率80%以上(前年度78%)	① 教育プログラムを周知させ、その理念に基づく行事運営、新規の取組み事例 ・式典における生徒による整列指導・点呼を実施。 ・オープンスクールは生徒が運営・進行を担う。(○) ②・学校教育自己診断(生徒)「学校生活についての先生の指導は納得できる」72%(△) ・学校教育自己診断(教員)「生徒指導において家族や関係機関との連携ができています」82%(○)
	(2) 学習と部活・行事の両立	(2) 学習と部活・行事の両立 ① 自学自習プロジェクトチーム中心に学習・部活両立に向けた取組み推進 ② 部活の活性化、生徒の活躍推奨。	(2) 学習と部活・行事の両立 ①学校教育自己診断(生徒)「勉強と部活の両立」の肯定率:65%以上(前年53%) ②部活動加入率:90%以上(前年度90%) 団体又は個人で近畿大会以上の出場を果たす	①学校教育自己診断(生徒)「勉強と部活の両立」53%(△) ②部活動加入率:90%(○) ・団体又は個人で近畿大会出場:達成(○) 近畿大会女子団体(剣道部) 近畿高等学校総合文化祭(美術部個人3名、書道部個人1名) 全国高校ダンス選手権(女子ダンス部)
	(3) 読書習慣確立	(3) 読書習慣確立 ① 朝読書推進、ビブリオバトル実施等により、生徒の読書意欲を高揚させる。 ② 図書室利用の推進、その為の図書館施設見直し	(3) 読書習慣確立 ①月間平均2冊以上読書する生徒比率:40%以上(前年度33%) ② 図書室貸出冊数前年比10%以上増加(前年度は▲24%)	①月間平均2冊以上読書する生徒比率36%(△) ② 図書室貸出冊数前年比10%以上増加:139%増(◎) 845冊(H28)⇒2020冊(H29)
	(4) 教育相談体制充実	(4) 教育相談体制充実 ① 教育相談体制やスクール・カウンセラー相談日の周知徹底。教育相談委員会を年間10回実施。	(4) 教育相談体制充実 ①学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって相談になって応じてくれる先生が多い」:肯定率70%以上(前年度65%)	①学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に親身になって相談になって応じてくれる先生が多い」73%(◎)
	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上 ①従来のオーストラリア語学研修に加え、更に実践的英語力を磨く英国語学研修を並行実施。1年生対象に国際理解教養講座を実施。 ②LL教室や米人NET活用、米人教師との英会話ランチミーティング等、英語4技能の能力を向上させる。	(5) 国際理解教育推進、実践的英語力向上 ①語学研修生派遣人数目標 オーストラリア研修及び英国研修合計40名以上派遣(前年42名) ・語学研修実施後の生徒肯定率:オーストラリア、英国とも90%以上(前年100%) ②GTEC平均得点目標 1年生445点以上(前年439点) 2年生465点以上(前年461点)	①・語学研修生派遣人数 オーストラリア研修:31名 英国研修:6名 合計37名(△) ・語学研修実施後の生徒肯定率 オーストラリア、英国とも100%(○) ②GTEC平均得点 1年生445点(○) 2年生456点(△)
学校安全基盤・広報体制の充実	(1) 本校独自の災害対策マニュアル周知徹底	(1) 本校独自の災害対策マニュアル周知徹底 ①首席中心の災害対策検討チームによる推進 生徒用災害対策マニュアルに基づく避難訓練等による周知徹底	(1) 本校独自の災害対策マニュアル周知徹底 ① 学校教育自己診断(生徒)アンケート 「災害に対して具体的な行動を知らされている」の肯定率70%以上(前年度68%)	①学校教育自己診断(生徒)アンケート 「災害に対して具体的な行動を知らされている」の肯定率76%(◎)
	(2) 学校HP内容充実とSNSリテラシー教育	(2) HP内容充実とSNSリテラシー教育 ① 学生、保護者向けの内容充実、更新スピードアップ。 ② SNSの持つリスク等に関するリテラシー教育を実施する。	(2) HP内容充実とSNSリテラシー教育 ①HP週2回以上更新(前年度週2回更新) ②SNSリテラシー教育講座を生徒・保護者・教員向けに1回以上実施。(前年度各1回実施)	①HP週2回以上更新 達成(○) ②SNSリテラシー教育講座を生徒・保護者・教員向けに1回実施(携帯電話会社社員、府立学校教員を招聘し、講演会や研修会を実施)(○)
	(3) 中学生徒にむけた広報活動推進	(3) 中学生徒向け広報活動推進 ① 従来のオープンスクールに加え、土曜日(土曜講習)を利用した中学生見学会を実施。 ② 新規の学校見学会実施	(3) 中学生徒向け広報活動推進 ①オープンスクールと学校見学会合計1250名以上招致。(前年度1217名)	① オープンスクールと学校見学会合計1298名(○)